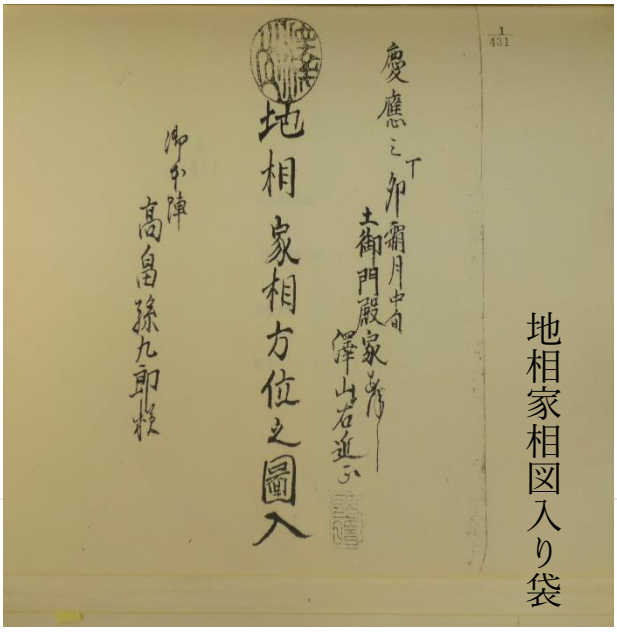
点描　１０　網干の陰陽師１

陰陽師といえば安倍晴明の名がよく知られているが、もう一人の人物に蘆屋道満がいる。両人ともに平安時代（784～1192）に活躍した陰陽師で県下佐用町に密なる語りを残しているが、室町時代に書かれたある歴史書には蘆屋道満はどうやら説話上の人物らしいと述べるが何故だろうか。陰陽師が唱える真言は臨・兵・闘・者・皆・陣・裂・在・前の九字で、これを**ドーマン**というらしい。そこでどうやら蘆屋**道満**（どうまん）なる人物が浮上したのか、彼らが用いた呪符は護符として現在（いま）に伝えられている。

江戸時代末期、播州網干揖保川東岸の支流、湾洞川沿いにあった福寿院（庚申堂）を拠点に陰陽師として活躍した澤山右近がいる。右近についての手掛かりとなる資料は、江戸時代播州室津本陣の高畠孫九郎家（薩摩屋）の「地相　家相方位の図（慶應３年　司天家澤山右近）」がある。当主孫九郎は文化１３年生まれ５０才を過ぎ老いを感じた彼の胸の内は図るべくもないが、陰陽師正統派土御門家の司天家を名乗るあぼしの澤山右近に家相・地相の吉凶を占わせた。次いで「御殿様上納初穂　澤山右近正」から藩主への献納金も疎漏無く行う右近の名声は、室津のみならず播磨西北部にまでも知れ渡っていた様子を、次回は探ってみよう。

歴史講座　　田中早春



地相家相図入り袋

神戸北区千年家呪符